

NEWS RELEASE

2009年1月30日

(財)損害保険事業総合研究所

2月25日発刊「損害保険研究」70巻4号のご案内

損保総研では、学者と実務家による損害保険とその関連分野に関する研究発表の専門誌として、「損害保険研究」を年4回発行しています（2月、5月、8月および11月）が、2月25日に70巻4号を発刊いたします。

今号では、実務家による研究論文と判例評釈を計4本掲載しました。研究論文では、本邦で銀行窓販が全面解禁されてから1年経過しましたが、バンカシュランスの本場であるフランスおよびイギリスにおける現状と課題を踏まえて本邦における今後の方向性を論じたものや、米国の医療保険の現状と課題を考察して日本への示唆を論じたものなど、実務的にも興味を持っていただける内容のものを取り上げました。

上記の他、研究者や実務家による研究論文、判例評釈ならびに第3回損害保険判例研究会での報告テーマ2本も掲載しております。

ところで、損保総研では昨年10月以降、新しく編集委員会を設置するとともに投稿基準を公開して、広く保険業界関係者、研究者などからの投稿を受入れる態勢を整えて参りました。おかげさまで、徐々にご照会件数も増えており、次年度の誌面はより一層充実したものにしたいと考えています。また、編集委員会では特に実務家の購読者に興味を持って読んでいただけるような特集企画を検討中です。

70巻—4号の主な目次

<研究論文>

- ・損害保険のリスクキャピタル

福井県立大学准教授

岩瀬 泰弘

- ・環境保険政策の経済効果— 応用一般均衡モデルを用いた分析 —

特定非営利活動法人環境自治体会議 環境政策研究所

客員研究員 桑名 謹三

- ・フランスとイギリスにおけるバンカシュランスの現状

—プロテクション商品のバンカシュランス—

(株) ニッセイ基礎研究所

主任研究員 松岡 博司

・米国医療保険の現状と課題に関する一考察

(社) 日本損害保険協会
佐々木 修

・保険契約に関わる権利義務の消滅時効の起算点と消滅時効期間

(株) 損害保険ジャパン
高橋 彩子

<判例評釈>

・子の友人が運転し事故を起こした場合の自動車所有者の運行供用者責任と、
同乗していた子の他人性が問題となった事例

損害保険料率算出機構
植草 桂子

<損害保険判例研究会>

・保険契約に適用される約款に基づく履行期が合意によって延期されたと認められ、
保険金請求権の消滅時効の起算点がその翌日となるとされた事例

東北学院大学教授 博士 (法学)
梅津 昭彦

・人身傷害補償条項における「極めて異常かつ危険な方法で搭乗中の者」の意義

専修大学准教授 博士 (法学)
伊藤 雄司

お申し込みの要領

- ・ 年間購読料 **6,300 円** (消費税・送料を含む)、ただし 70 巻 4 号 (2009 年 2 月号) から 71 巻 3 号 (2009 年 11 月号) までの 1 年間 4 冊分
- ・ 申込み方法 当研究所ホーム・ページ (<http://www.sonposoken.or.jp>) をご覧のうえ、ウェブ経由または申込書のファックス送付のいずれかの方法によりお申込み下さい。

本件に関するお問い合わせ先

〒101-8335 千代田区神田淡路町 2-9

財団法人損害保険事業総合研究所

編集室 鈴木 喜昭 (TEL: 03-3255-5513)

この資料は、保険関係業界紙各社へ同時に配布しております。